

早く咲く花、遅い花

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文

瀬戸出身の中学生が話題を集めました。プロ将棋棋士としてデビュー以来公式戦29連勝の新記録を達成した藤井聡太君です。藤井君は「5歳のとき祖父母から将棋の手ほどきを受け、将棋塾に通い始めると、入会時渡された480ページもこの本の内容を、字の読み書きを学ぶ前にもかかわらず1年で修得した」とウイキペディアに紹介されています。とすると、藤井君は5歳にして天与の才に出会い、それを磨き14歳にして偉業を達成したわけです。

グラマンはニューヨーク近郊の農家で10人兄弟の三番目に生まれました。家族の誰も働かなくてはならない暮らしでしたが、家の修理の折、壁紙が足りないところに父親が描く楽しげなペンキ絵に皆が笑う、そんな貧しくも心豊かな少女時代を過ごします。

アンナ・モーゼスさん(通称グランマ・モーゼス以下グランマ)は75歳から油絵を始め、その作品が切手になったり(左下図)、葬儀ではケネディ大統領から弔意が示されたりするほどの画家となった、遅咲きの人です。

グラマン66歳、夫が亡くなり、病弱な娘の家族と一緒に生活を始めます。娘の求めに応じて作り始めた飾り刺繍が大評判となりますが、その娘も亡くなり、グラマンもリユーマチで刺繍ができなくなり、が、訪ねてきた妹の「針が無理なら筆にしたら」の一言で、夫が残したペンキと刷毛で絵を描くようになります。

グラマン75歳、描くことに喜びと安らぎ

を感じるようになり、油絵の道具をそろえ、本格的に田園風景を描き始めます。

グラマン78歳、ドラッグストアに展示されていた絵がたまたま通りかかった美術蒐集家の目にとまり、全作品10点が買い取られ、その後も絵は買われていきます。

グラマン80歳、ニューヨークで初の個展が開かれると大評判となり、国民的画家への道を歩み始めます。

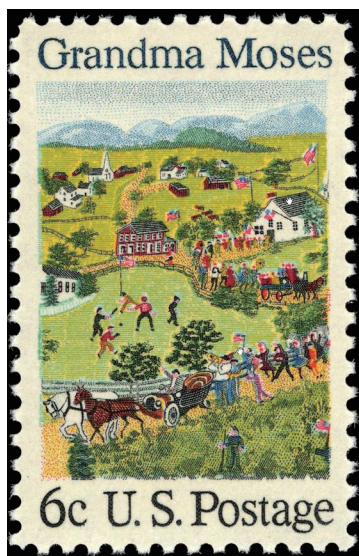
グラマン101歳、約1600点もの作品を残し、惜しまれつつ101年の生涯を全うします。

幸運な人がいる一方、自らの才能に気づくことがないまま一生を終える不運な人もいます。が、不運な人が不幸とは限りません。

グラマンは自叙伝の最後で「もし私が絵を描いていなかったら、ニワトリを育てていたかも知れませんが」と書いていますが、与えられた環境を誠実に生きたグラマンは、画家でなくとも、ニワトリを育て、家族に囲まれ、美しい思い出とともに心豊かな一生を終えたでしょうから。

グラマンの風景画は、目の前に広がる景色に、父親のペンキ絵に心なごんだ遠い故郷の日々を重ねていたからこそ、普遍的な魅力があるのでしょう。

早からうと遅からうと、天与の才に出会い、花咲かせる



Grandma Moses 1969